Mate Selection における期待形成理由と期待形成過程に関する研究

○小澤拓大¹・下斗米淳¹

(¹専修大学)

キーワード: 配偶者選択, 期待形成

The causal process of expectation for partners in mate selection

Takuhiro OZAWA¹ and Atsushi SHIMOTOMAI¹

(¹Senshu University)

キーワード: Mate Selection, expectation formation

目 的

親密な対人関係に関する研究は、過去に多く取り上げられてきたが、親密な相手に抱く期待や、期待する理由、そして期待形成の背景にある心理過程に関する研究は少ない。本調査では、まず、恋人と結婚相手に対してどのような期待を抱いているのか、またなぜそのような期待をしているのかを明らかにすることを目的とした。

方 法

研究協力者 (分析により使用データ数は異なる)

大学生 340 人 (男性 200 名 女性 140 名/平均年齢 19.33 歳)

調査内容

質問紙調査を行った。研究協力者は、恋人または結婚相手に対して「①最も期待する特徴 (自由記述)」「②その特徴はどのような側面に関わっているものか (多肢選択)」「③なぜその特徴を期待するのか (9 件法 50 項目)」「④絶対に持っていて欲しくない特徴 (自由記述)」「⑤その特徴はどのような側面に関わっているものか (多肢選択)」「⑥なぜその特徴を絶対に持っていて欲しくないのか (9 件法 50 項目)」について回答した (当日、資料を配布予定)。

結 果

最も期待する特徴が関わる側面

図 1 : 最も期待する特徴が関わる側面

絶対に持っていて欲しくない特徴が関わる側面

最も期待する理由/絶対に持っていて欲しくない理由

最も期待する理由および絶対に持っていて欲しくない理由に対するそれぞれの回答結果に対して、恋人と結婚相手の回答結果をまとめたうえで、因子分析 (最尤法、バリマックス回転) を施した。その後、研究協力者ごとに各因子に対する合成得点を算出した。それぞれの平均値を図 3, 4 に示す。

図 3 : 期待する理由

図 4 : 絶対に持っていて欲しくない理由

考 察

特徴が関わる側面は両特徴とも性格など内面に関するものが多くあげられた。理由に関しては、両理由間に対応関係がみられるもの (例: 「社会的痛み無懸念化機能」対「社会的痛み生起機能」) もある一方で、それぞれに独得なものも存在した。また、結果をみるに、今後は対象差 (恋人・結婚相手) や性差も考慮する必要がある。